

# 妊娠初期の 乳腺超音波検査を 推奨しています

日本人女性が罹患するがんの第1位の乳がんは、9人に1人が患うと言われていますが、  
早期に発見し適切な治療を行えば完治できるケースも多くあります。

しかし、妊娠中や授乳期は、検査がおろそかになってしまうので  
自覚症状がなくても妊娠が判明したら乳がん検診を受けましょう。

乳がん検診は“妊娠16週まで”にお受けください



妊娠中期・後期や授乳中は  
乳腺が発達するため、  
小さな乳がんは発見しにくくなります。



乳がん発見時にはしこりが大きく、  
進行した状態で見つかることが多いため、  
治療が難しいことがあります。



赤ちゃんは、お腹の中にいる時だけでなく、  
生まれた後も長い間お母さんを必要とします。  
赤ちゃんのためにもお母さんの健康はとても大切です。  
安心して出産・育児が出来るよう、**妊娠初期に乳がん検診**を受けましょう。

日程

木曜日(月2回) 14:00~15:30  
土曜日(月1回) 14:30~16:00

料金

¥4,400 (税込)

※木・土曜日の実施日についてはHPを確認、または受付にお問い合わせください。

# (乳腺超音波検査) 乳がん検診 Q & A

乳がん検診には「超音波検査(エコー)」と「マンモグラフィ検査」がございます。

妊娠・授乳期はX線を用いるマンモグラフィはお受けいただけませんので、超音波検査(エコー)にて検診を行います。

## どんな検査をするの？

超音波検査は胎内の赤ちゃんの状態を診断するために使用されるものと同じで、ジェルを胸に塗り、プローブと呼ばれる機械を当てて乳房内部を映します。  
胎児に影響はありません。



## 妊娠初期に乳がん検診って必要なの？

近年、妊娠・授乳期に乳がんにかかる方が増えています。  
乳がんは早期発見・早期治療が大切ですが妊娠中期・後期、授乳期になると乳腺が発達し、超音波画像でしこりの良性・悪性を判断するのが難しくなります。  
妊娠初期で検査をしておくことにより、授乳期にしこりが見つかったとしても、良性か悪性かの判断がしやすくなります。

## 妊娠期の乳がんは進行が早い？

体内のホルモンが変化することにより、乳がんの進行が早くなる可能性が指摘されています。妊娠中は乳腺が発達するため自分でしこり等に気が付くのが難しくなり、乳がん発見時にはしこりが大きく、進行した状態で見つかることも多いため、治療が難しいことがあります。  
しかし、早期発見し早期治療を行うことによって、妊娠と関連のない乳がんと同等の治療効果が報告されています。

## 妊娠中に乳がんの治療はできるの？

仮に妊娠中に乳がんが発見されても必ず中絶しないといけないわけではありません。現在では、産婦人科と乳腺外科が連携し、最適な治療法を選び、胎内で赤ちゃんを育てながら乳がんの治療を行うことができます。